

企業を訪ねて 10

株式会社酒井鉄工所(大型機械部品・造船部品・プラント部品等の切削加工)

■「ものづくりは人づくり! 人づくりが我が社の生きる道!」

平成27年2月19日(木)、柏崎市の株式会社酒井鉄工所をお訪ねし、代表取締役社長の酒井好道氏から“ものづくりにかける思い”について伺いました。

聞き手◆経営者として大切なものは?

酒井氏◇昭和13年に父親が起業し、職人集団にあって、「信用こそ第一」という理念の下で、信用という言葉に重きをおいて商売を行ってきました。信用とは、お客さんの期待に技術で応えることであり、それによって自社の特徴である職人氣質を維持し続け、決して見失うことは有りませんでした。“人づくりも信用であり、人づくりこそ我が社の生きる道である”ことを守り続けて参りました。

◆人づくりで重視する点は?

◇信用と言えば、約束を守るのは当たり前ですが、やはりその人の情熱や熱意といった前向きな意識を常に持たせ続けることが必要だと考えています。そのためには、ある程度の余裕やゆとりを持つことが必要です。人によって才能が開くのは、タイミングも花の開き具合も違いますので、花が開きやすい環境を考え、根気よく育てていくことを常に心掛けています。

それから、挨拶ができることとコンシエンス(conscience、良心)が大切です。悪いことを見ても決して真似しないこと、頑張っているところを見たらそれ以上に頑張る心を持つことを教えています。

◆力を入れている技術や得意な領域は?

◇我が社は主に切削加工を専門としていますが、どちらかというと開発型企业と言えます。25年前から石川島播磨重工業(当時)のターボチャージャーを16年に渡って製造をしてきました。特に、タービン軸の中心部品であるフローティング部分のセンターセクション部品を製造するに当たって、タービン回転数が250,000rpmにもなることから、ミクロン単位で非常に高い精度が求められましたが、初年度を除いて、ほぼノークレームで製造をし続けることが出来ました。併せて、イオン窒化炉を熱処理屋さんに導入して頂き、窒化鋼(SACM645)の表面硬化処理も行いました。

更には、インコネル(難削材)のクリープフィード研削盤をメーカーである岡本工作機械製作所に提案し、作ってもらったこともありました。これにより自動車メーカーから問い合わせが来るくらいに高い精度で部品を作る事が出来ました。(その他、数多くの取組がありますが、ここでは割愛いたします。)

この様に、何にでも興味を示す事が幸いし、ものづくりでの創造性や精度の意義と強みを修得しました。



酒井 好道 社長

聞き手：原 利昭 本学副学長(地域産学交流センター長)

◆写真が趣味とお聞きしていますが。

◇自分で楽しむ程度に撮っているだけで、腕があるわけではありませんよ。実は高校時代に写真同好会に入っていて、その頃から写真に興味がありました。主に花や海、山等の自然を撮っていますが、写真のいいところは映像で感激した時の情景を思い出すことができる場所ですね。思い出のきっかけになるところが良くて、休日に家内と一緒に写真を撮りに出かけるのが楽しみの一つですよ。

◆若者に求めることや本学に対して期待するところをお聞かせ願います。

◇気さくだけど、最近の若者には、上下の関係をわきまえた謙虚さというのが少し足り無い様に感じます。それから、すぐに諦めない忍耐強さと体力も必要ではないでしょうか。

新潟工科大学には、やはり学生の教育にもっと力を入れてもらいたいです。工学部としての専門性も大事だけど、学ぶための基礎を築き、何かに向かう情熱を学び取る事が必要だと思います。そのためには、学生に興味を持たせ、自信を持つ様にすることが大切であり、それが先生方の使命でもありますね。今でも面倒見の良い教育が行われていますが、学生が自立するためには、何を身に付けば良いのかを学ぶための手助けが必要だと思います。

◆お忙しい中、大変貴重なお話をいろいろとお聴きする事が出来ました。有り難う御座いました。